

## 令和7年度の捕食者対策の実施について

北海道地方環境事務所

## 1. 概要

主要な減少要因の1つであるハシブトガラスの捕食被害が令和6年度も継続して発生している。ウミガラスの個体数の回復を図りロードマップに定めた目標を達成するため効果的な捕食者対策案を検討するもの。

## 2. ねぐら対策及びシャープシューティングの実施

## (1) ねぐら対策

島内にハシブトガラスが滞在しにくくするため、事前にねぐら調査を行った上で、追い払い対策を講じた。時期は、ウミガラスの抱卵前及び抱卵初期を目処にし、4月上旬から6月上旬にかけて断続的に実施した。

ねぐら調査により、島内のねぐらは複数あることが分かり、4月時点で30羽程度、5月時点で50羽程度を確認した。なお、調査時期は繁殖期に入ると樹木が展葉し個体の動向が追いつらくなることから初春もしくはその前が望ましい。また、追い払い対策ではねぐら入り後の群れをレーザーポインターで追い払った。ねぐらの追い払い対策は徹底的に留まる場所をなくすことであるものの、ねぐらに適した林が連続する天売島の環境では、追い払い後の追跡が困難で、徹底した追い払いができず、ねぐら場所が移動するだけとなったため、効果が得られなかった。

## (2) シャープシューティング

令和6年度は既存のエアライフル捕獲に加えて、新たな手法として、自然木及びテントを用いたシャープシューティングを実施した。実施は赤岩展望台基部で6月13日に1回、古灯台付近で6月2日と7月7日の2回実施した。結果、6月2日は半日で15羽のカラスを捕獲した(6月13日及び7月7日は捕獲なし)。

赤岩展望台基部においては、テントを使用してシャープシューティングを実施した。ハシブトガラスが訪れる頻度が少なく実施時間に飛来する確率が低いことに加え、風などの自然条件が厳しいことから、シャープシューティング自体が難しいことが分かった。

古灯台付近では鳥類の専門家である中村浩志信州大学名誉教授によるアドバイスのもと、自然木を用いたブラインドを使用した。実施1回目にスマートガラス(学習し警戒心が高まり捕獲しづらくなる個体)を発生させることなく捕獲することができ、効率的かつ効果的な手法であることが示された。同箇所でも実施した2回目は実施時間にハシブトガラスの飛来がなく捕獲はできなかった。季節による採餌場所の変化などで集結地が変動したためと思われる。

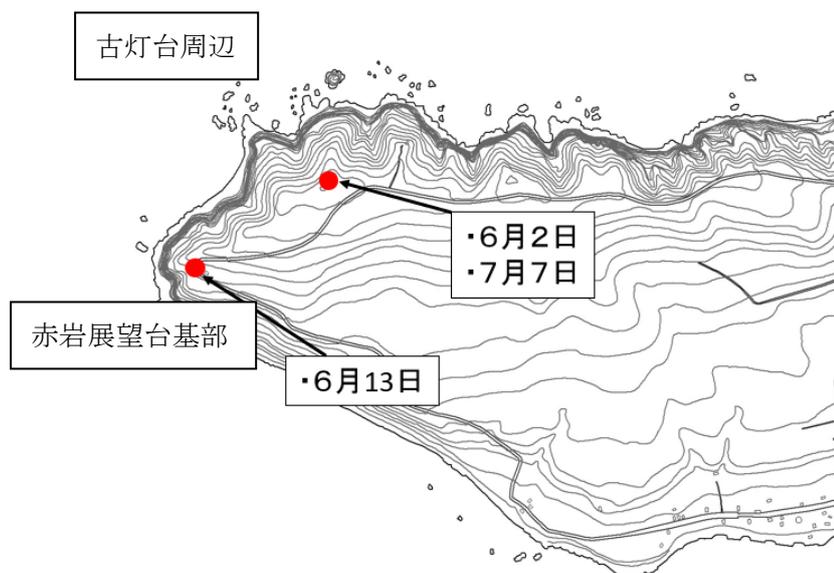


図 1 シャープシューティング捕獲実施位置

～赤岩展望台基部～



(図 2 設置したテント概観 (左)、設置したテント上部 (右))



(図 3 射手の様子)

## ～古灯台周辺～



(図4 1回目SSに使用したブラインド(左)、狙撃地点に飛来するハシブトガラス(右))



(図5 日中のカラスの滞在場所(左)、ドローンを使用した誘導作業(右))

表1 エアライフル捕獲実施結果(※青セルはシャープシューティング)

	赤岩繁殖地(海岸)		陸		備考
	ハシブトガラス	オオセグロカモメ	ハシブトガラス	オオセグロカモメ	
5/11 8:30-15:00	-		7		ハシブトガラスがエアライフルを学習しておらず路上でも捕獲が可能。繁殖地周辺に多数滞在
5/26 8:30-15:00	-		4		
6/2 8:30-15:00	-		15		古灯台周辺でシャープシューティングを実施。 中村先生指導及び同行にて草木ブラインドによるSS
6/13 4:30-8:30	-		0		赤岩展望台にて、テントを利用したSS実施。 ハシブトガラスが飛来しやすい早朝の時間帯に実施。飛来は3回程度。飛来頻度の少なさ、テントの中のスペースの確保の難しさ、濃霧、風の影響で捕獲できなかった。
6/14 8:30-15:00	0		4		
7/4 8:30-15:00	-		8		黒崎海岸や森林部、繁殖地で捕獲。
7/7 6:30-8:30	-		0		古灯台 カラスの飛来は1度のみ。繁殖地周辺にカラスの群れは確認できなかった。既に採餌場所を変更していた可能性が高い。
7/7 8:30-15:00	-		2		カラスは繁殖地周辺に少なく、森林部や観音崎(島の東側)にまばらに見られる程度。濃霧のせい か、活動が活発ではなかった可能性。
7/11 8:30-15:00	-		9		
7/25 8:30-15:00	-		2		観音崎周辺で70羽をカウント。カラスの群れは島の東側に滞在。
7/27 8:30-15:00	-		7		
7/29 9:00-13:00			0		
合計	0		58		

## 3. 過年度対策のとりまとめ

考察	
特定の個体がウミガラスの繁殖巣棚に定着しており、繁殖シーズンを通して訪れていると思われる。飛来個体数が大きく増加することはない1～3個体が確認されている。令和6年度は最多で2個体を確認。	モニタリング/ エアライフル
ハシブトガラスが繁殖巣棚に頻繁に訪れるのはウミガラスの抱卵初期、巣立ち後期である。いずれも巣棚内に餌があり、ウミガラスの繁殖つがい数の少ない（自衛力の弱い）時期を狙って訪れる。	モニタリング
ハシブトガラスは海鳥の繁殖状況に合わせて採餌場所を変えている。令和6年度は、5月上中旬はウトウの卵・ヒナを求めて海鳥繁殖地（赤岩展望台・海鳥観察舎周辺）で多数確認。7月に入り、ウトウがいなくなると、ウミネコの雛がいる黒崎海岸周辺へ移動した。7月下旬の日中は海鳥のいない森林部に多数滞在していた。	エアライフル
経年的な巣落とし対策により、カラスの営巣場所が人間のアプローチのしづらい高所などに変わってきていると思われる。また、赤岩に訪れる特定個体が繁殖個体であれば、この個体の巣の特定と除去が直接的な効果となる。	巣落とし
令和6年度の捕獲がおおよそ終了した7/25に70羽のハシブトガラスが確認された。島内での繁殖終了個体が集合したと考えられる。毎年50羽程度を捕獲しているにも関わらず捕食圧は弱まっておらず、島内の個体数を減らすこともできていない状況である。	エアライフル

## 4. 対策方針及び令和7年度対策案

ウミガラスの繁殖巣棚へ飛来する個体は特定個体と考えられており、島内のハシブトガラスを減少させつつ、かつこの特定個体の捕獲を目指すことが重要である。

まずは、オオセグロカモメの捕獲休止で減らしていた海岸でのエアライフル捕獲の頻度のある程度増やし、忌避効果も意図した捕獲を行う。さらに、今年度手法を確立した草木ブラインドによるシャープシューティングで50羽程度の非繁殖個体群の捕獲を行う。同時に島内の巣探しを鳥類専門家の指導のもとに実施し、巣落としを進める事で、短期間に集中的に島内のハシブトガラスを減少させる。

具体的には、草木ブラインドをそれぞれ集結地（休息地）付近に2箇所程度設置し、ハンター2名体制、時期は、ウミガラスの抱卵前・抱卵初期である5月上・中旬の実施を想定する。捕獲により島内の生息数を減らした後は、ハシブトガラスの動向をモニタリングしていく。これまでの捕獲結果と効果を検証し、より効果的な捕獲方法の検討を行う。

	4月	5月	6月	7月	8月
ウミガラス		天売島周辺に飛来 ハシブトガラスが巣棚に飛来しやすい時期	産卵	抱卵	巣立
ハシブトガラス		造巢・産卵	抱卵	育雛	巣立
エアライフル		海岸での対策を強化			
エアライフル (SS)		ウミガラスの抱卵前である5月上・中旬に集中捕獲			
巣落とし		ウミガラスの抱卵前である5月上・中旬に集中捕獲			

図 6 捕食者対策実施時期